

見慣れているはずの景色も、湖面に身を浮かべてみると初めて見た光景のように新鮮。水面に静かに浮かんでいるだけでもこの上ないリラックスが得られます。

ボートの上だからこそ 目にできる絶景 心を深く満たす非日常の世界

フィールドへ携帯しよう インフレーターボート

ボートがあれば、あなたのアウトドアレジャーはもっと楽しくなります。ボートにもさまざまなものがありますが、持ち運ぶことを考慮すると、おすすめは断然、空気でチューブを膨らませるインフレーターボートです。強化プラスチック製の硬い船体を持つFRPボートは、やはりその重さとかさばりがネック。ルーフに乗せたり、専用トレーラーで引っ張ったりしている自動車をつまに見かけますが、特に車への上げ下ろしや、陸上での取り回しには相当な体力と経験が必要になります。インフレーターボートは比較的軽量で、しかも空気を

抜けばコンパクトに収納でき、乗用車のトランクにも余裕で乗せられるのです。

ジョイクラフト艇なら、目的地に着いてチューブに空気を充填するのも、電動ポンプで楽勝。さらにオプションのランチングホイールで水辺まで一人で簡単にアプローチ可能です。またレスキュー艇にも使われていることからおわかりのように、船体は非常に丈夫な素材で造られており、砂浜で引きずったり、岸壁などに少々ぶつけたとしても大抵の場合、問題ありません。加えてFRPボートに比べて浮力が高く、水上での安定性に優れ、水際での取り回しも簡単なことが特徴です。したがって、たとえばキャンプ先の湖で急遽その気になってボート釣りに興じたり、無人島や陸からは行けないビーチなど

左：小さな滝を発見したので、間近まで行き、大量のマイナスイオンを浴びる。接触到強いインフレーターボートだから、こんなに岸壁に近づいても平気なのです。
右上：秋には紅葉狩りも。インフレーターボートがあれば、美しく色づいた紅葉を湖面から堪能することも可能です。ぜひ春の桜もボートで楽しみたいもの。
右下：北上川での川下りレースの様子。ジョイクラフトの傑作川下りモデル、RBシリーズなら、こんなホワイトウォーターでのダウンリバーにも挑戦できます。



に上陸するワクワクの冒険クルーズといったシチュエーションが大得意なのです。

インフレーターボートには、いくつかの種類があります。もっとも手軽なのがオールで漕ぐローボート。人力で動くため、行動範囲は相応に限られますが、楽に漕げる設計を施されたジョイクラフト艇なら数百mの航行は疲れ知らず。また川下りモデルなら、ラフティング的な遊び方も楽しめるでしょう。

そして機動力を求めるなら、やはりエンジン付きのスポーツボートです。「そうは言ってもボートには免許が要るんじゃないか……」と二の足を踏むアウトドアファンもいるかもしれませんが、確かに、以前は小さなボートでもエンジンが付いていると、操船には

小型船舶免許が必要でした。しかし、今日では事情が違います。規制緩和政策により、一定基準(船の長さ3m未満、推進装置1.5kW[約2馬力]未満など)を満たしたボートの操船は、ローボート同様に、船舶免許は不要なのです(詳しくは13ページ参照)。こうした検査・免許不要艇は、本カタログに多数掲載されていますが、艇によって1~4名が乗船でき、一人乗りで時速16kmを超えるモデルもあるように、十分な走力も備えています。その機動力によってボートで得られる非日常の楽しさは、10倍にも20倍にも広がっていくことでしょう。

アウトドアレジャーを楽しみ尽くすために、ぜひクルマにジョイクラフトボートを積み込んでフィールドへお出かけください。